

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|------------------|------------|-----------|
| 事業所番号 | 4371100431 | | |
| 法人名 | 医療法人 再生会 | | |
| 事業所名 | 認知症対応型共同生活事業ぬくもり | | |
| 所在地 | 熊本県宇土市松山町1907 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年11月22日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年1月31日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/43/index.php |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」 | | |
| 所在地 | 熊本県熊本市中央区水前寺3丁目15-1-1001 | | |
| 訪問調査日 | 令和3年12月17日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍でなかなか外出できない入居者のために室内で出来る催し物を企画したり、入居者全員が楽しく過ごすことができるよう努力している。また職員もコロナ禍でストレスも溜まっていると思うが、誰一人として勝手な行動はせず、職員がコロナウイルスを施設内に持ち込まないよう普段の生活から気を付けており、改めて職員の責任感の強さを感じることができ誇りしかった。職員に看護師がいないなか2名の方の看取りを行ったが、看取り介護の経験が浅い職員もいたが、チームワークと先輩から学びながら看取り介護ができ、またご家族からの感謝の言葉に職員の自信にも繋がっている。入居者同士でのコミュニケーションも増えている。また職員は入居者との日常の会話などから、入居者の思いなどを汲み取ろうと努力し、入居者の行動の一步先を考えてケアを行い、入居者一人ひとりに応じたケアを

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

キッチンから食堂、そしてリビングまでつながるゆっくりした共用空間では、密にならず、心地よい距離間でおしゃべりしたり、ソファでテレビを見たり、好物の干し柿を食べたり等、入居者が穏やかな様子で過ごしている。日々の日程は大まかに設定し、入居者それぞれのペースと自由な暮らしが尊重されており、職員は家族や仲間のような心を大切に支援している。ホームの名の通り「ぬくもり」感漂う暮らしが実現している。勤務年数の長い職員も複数いて、入居者との馴染みの関係も出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 事業所の理念は毎日記録するカードックスや事務所、廊下に貼っており、職員がいつも確認することができ、毎日のケアの中で利用者同士が支え合うことを支援し、職員、利用者が馴染みの関係になっている。 | 入居者の人生の継続や、価値観の尊重など、理念に込められた思い「そのらしさを大切にした支援」が行われている。職員は、一人ひとりのペースを尊重し、ゆったりとした生活日課で、ぬくもりのある穏やかな暮らしが継続できるよう支援している。 | 理念について、話し合う機会があると職員への浸透が深まり、更に良いと思われた。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ以前は保育園の慰問があったり、中学生の職場体験があったり地区の敬老会を見学に行ったり、お散歩に出かけてはすれ違う方と挨拶をかわしたりできていたがこの2年間はほとんどできていない。 | 以前は、母体法人が主催する運動会・文化祭・夏祭り・クリスマス会等に参加し、地域の人々との交流していたが、現在はコロナ禍の為できていない。コロナ収束後は、近隣の保育園や小学校との交流を再開したいとしている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ禍であり、以前のように小学校の交流授業や中学生の職場体験なども中止となり、地域の方との交流ができなくなっている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナウイルス感染拡大防止の為今年の3月より書面での報告となっている。質問ご意見等あればご連絡をいただくようしている。また、家族代表の方に関しては面会に来られた際に伺うようにしている。 | 運営推進会議は、コロナ禍のため委員に資料を配布する書面会議となっている。資料には、ホームの現状を分かりやすく記述し、入居者の様子も写真で報告している。対面による運営推進会議の再開については、宇土市の見解を参考にタイミングを図っている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 今までになかったこと、「こういう場合はどうなっている？」と思うことご家族からの相談でぬくもり内で答えが出ない時には市役所に相談している。また、コロナワクチン接種の際には特に市役所との連携は密に行うことができていた。 | 入居者と職員のコロナワクチン接種に関しては、不明な点等を市役所に相談しながら、密に連携をとり適切な対応をとることが出来ている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 3ヶ月に1回、ミーティングの際に身体拘束委員会を開き、職員全員でセンサーマットの使用等ケアの見直しを行っている。四方の窓に施錠はしておらず出ていかれる際にはそれとなく話かけながら見守りを行っている。 | 「身体拘束等の適正化のための指針」を整備し、年に2回職員研修を実施している。3カ月に1回のミーティングでは、スピーチロックについて話し合ったり、ケアの振り返りを行っている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 定期的に勉強会を実施し高齢者虐待法について学び、自己のケアの振り返りを行っている。また、職員の疲労やストレスを考慮した勤務体制作りに努めている。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 成年後見制度を利用している利用者はいない。事業所として勉強会を行っている。昨年はなかなか外部研修への参加ができていない。また職員全員が理解しているとはいえない。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 契約書・重要事項説明書は、改定時に分かりやすいように説明するよう努めている。ご家族には、分かりにくい部分などないか確認しながら行っている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍であり、以前より面会に来られることが少なくなってきたが、毎月の手紙や面会時に近況報告を行ったり、必要に応じて電話で話すようにしている。ご家族からの要望などはミーティングなどで話し合い、実現できるよう働きかけたり、ケアに繋げている。 | 日頃の様子を写真に撮り、担当職員が手紙を添えて毎月家族に近況報告している。訪問調査当日の午後、食堂で満面の笑顔で干し柿を食べる入居者の様子を、楽しそうにカメラでとっている職員の様子が見られた。暮らしぶりを写真にして家族に送り、コロナ禍で面会が出来ない家族の不安を安心に変える取組が行われている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 入居者のケアなどについての提案などは、職員間で情報を共有できるよう、申し送りなどを活用しケアが統一できるようにしている。一定期間試し、検討を繰り返しながら、入居者に最善のケアを提供出来るよう努めている。 | 管理者は、勤務表作成時に月に1度は職員が連休をとれるように工夫し、夜勤の負担やストレスを軽減し、働きやすい環境整備に取り組んでいる。また、意見が出しやすい雰囲気づくりに配慮し、ケアプラン見直し時の会議では、意見を出す職員が少しずつ増えてきている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|----|--|---|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 母体では資格取得に向けた費用の補助などがある。また人事考課制度により、日々の努力が評価され給料査定に繋がり、やりがいを持って働けるよう取り組んでいる。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 多くの職員が研修会の機会が得られるよう努めている。コロナ禍でありオンラインでの研修参加や動画視聴の研修など、自宅でも研修を受けることが可能になっている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地区の連絡会が中止となり、対面での情報交換は困難であるが、電話やSNSなどで情報交換を行っている。 | | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | コロナ以前は、ご家族から相談があった段階で、一度見学に来られることをお声掛けしていたが、見学が難しい為、事前に生活状態を把握することで、不安な気持ちを受け止め、寄り添い安心してもらえる関係作りに努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 施設の説明だけでなく、これまでの経緯やご家族様の苦労をゆっくりお聞きし、労いの言葉を掛けさせて頂いている。それぞれの思いを汲み取り、次の段階の相談に繋げている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご家族が申し込みをされるとときに少しお話を聞いた際にグループホームよりその方に合う施設やサービスがあるのではないかと思います。そうときにはその場で説明をしたり、包括を紹介したりしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 支援する側、支援される側という意識を持たず、お互いが協働し、一人一人の出来ることに目を向け、それを活かすよう努めている。ご高齢になり、介護する場面も増えたが、時に甘えてみたり、隣に座ってスキンシップをとったりと支え合いながら生活している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 本人様の日頃の状態を電話や月に一度の手紙で報告している。入居される前の関係を大切に、受診をお願いすることでご家族の安心にも繋がっていると思う。ご家族の希望で、携帯電話を使用されている方もいる。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 行きつけの美容室を利用している。親戚が経営している美容室へ行かれる方もいる。補聴器のメンテナンスや歯科受診も以前から利用している所で行っている。 | コロナがやや下火になり、県内在住の家族は、15分間を限度として久しぶりの面会が再開されている。行きつけの美容室や大好物のうなぎ屋、お墓参りなどは、家族の協力を得て馴染みの場との関係継続支援を行っている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者同士の関係性について情報連携し、職員で共有している。入居者同士のトラブルもあるが、会話の橋渡しを行い関係が上手くいくように支援している。入居者同士の声掛けや支え合いを見守りながら、支え合える関係作りを行っている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退所されたご家族が使わなくなったリクライニングの車イスや歩行器を持って来て下さったり、近くを通りかかった際にふらっと立ち寄り近況を話していかれたりしている。他の事業所に移られた際には電話やFAXで情報交換を行い暮らしの継続性が損なわれないよう努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日常の会話の中からその方が話した言葉、思いを書き留めたり、こういう風になりたいのではないかと考えたりしている。困難な場合はご家族に聞いてどう思っているのか尋ねたり、ぬくもりでどう暮らして欲しいか聞いている。 | 日頃の何気ない会話の中からこぼれる言葉を拾い、思いの把握のヒントとし、職員間で共有して支援に繋げることを心掛けている。焼肉を食べたい、刺身を食べたい等の声には誕生日や敬老会、クリスマス会等のメニューに取り入れ、望みを一つずつ叶えたいとしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | それまで利用していた施設やケアマネからの情報収集を行ったり事前にご家族と会う機会がある場合はその時に尋ねたりもしている。それでも不足しているときには入居してから本人様に聞いたりしながら部屋のレイアウトを決めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 大まかな日課というものはあるが就寝や起床の時間、食事の時間はその方に応じて対応している。日々バイタルを測定して普段と測定値が変わらないか確認。スタッフの五感で入居者を観察するようにしている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 毎月モニタリングを実施。また定期的にミーティングで話し合いその時に出た意見や気づきをケアプランに反映されてケアマネ一人のプランにならないようにしている。面会時にはご家族と話したり本人様にどう生活していきたいか聞くようにしている。 | 職員ミーティングで出される全職員の気づきや意見等を検討し、プラン見直し時に反映している。入居者が笑顔で穏やかに日々をすごせることを大切に、家族の思いにも配慮してプランを立てている。6カ月ごとの見直しを基本としている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 記録やフローシートにしっかりと記入するようにしている。申し送りノートには簡単に記入したり、申し送りノートの後ろには各入居者の気づきなどを書くところを作り出勤時には目を通すようにしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 定期受診などはご家族に依頼しているが、急病やご家族に用事がある時などは受診はぬくもりスタッフで対応したり受診の順番取りを行っている。その時に生じたニーズに対してはスタッフで話し合いどう対応していくか検討し実行している。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナ以前は、運営推進会議を定期的に行い警察や民生委員をお呼びして、認知症を理解して頂くように意見交換をしていたが現在は行っていない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人様、ご家族の希望に沿いかかりつけ医に継続し診て頂けるよう支援している。受診の際は、事前に連絡したり、手紙等で情報提供している。 | 入居前からのかかりつけ医の継続受診と家族による受診同行を基本としている。コロナ禍では、訪問診療を受けたり、状況に変化がない入居者は直接かかりつけ医と電話で話したりして、入居者が安心して過ごせ、適切な医療を受けられるように支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 非常勤の看護師を配置しており、利用者の健康状態や状態の変化に応じた支援をしている。看護師がいない時間は、介護職員の経過記録を元に確実な連携を行っている。利用者の些細な変化を見逃さないよう、気づいたことは、直ちに管理者や看護師に報告し適切な医療に繋げている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 長期の入院により認知症の進行が考えられること、日常生活がリハビリになるということから、事業所での対応可能な段階で早期退院できるよう働きかけを行っている。コロナ以前は定期的にお見舞いに行き病院側と情報交換を行っていた。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居時や普段の会話の中で終末期にどのように過ごしたいかを本人様に、どのように過ごしてほしいかをご家族に聞いて記録に残しいつでも閲覧できるようにしている。また終末期に入るであろう前にはご家族、主治医、スタッフと話し合いの場を設け気持ちを聞いたり方向性を決めるようにしている。そのことはスタッフ全員に伝え共有している。 | 「看取りに関する指針」に、看取りに関するホームの考え方・基本姿勢・具体的な方法などを分かりやすく文章化しており、入居時に家族に説明している。また、看取り介護に入際は、家族に冊子「やすらかな看取りのために」を使用して看取りのための心の準備等を説明し、寄り添い、思いに配慮した支援を行っている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 各自マニュアルを随時確認。定期的に心肺蘇生の訓練も行っている。院内、院外研修にも積極的に参加しており日々慌てずに対応出来るよう努めている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている | 年2回訓練を行っている。1回は夜間想定避難訓練で、コロナ以前は消防署にも出動要請して避難訓練を見てアドバイスをいただいていた。1回は母体の病院と合同で大規模災害訓練を行っている。都度マニュアルの見直しも行っている。 | 大規模災害を想定した訓練が、隣接する母体病院と連携して行われている。また、火災を想定したホーム独自の避難訓練等も、入居者も参加して年に数回実施している。食料・水・トイレ紙・マスク等を備蓄し災害時に備えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 人生の大先輩である利用者の思いを大切にケアに努めている。しかし、出来ない時も、職員の意識づけが必要である。 | トイレ・便所と大きく並列して表示したり、トイレ誘導の言葉かけも、それぞれに分かりやすい表現で介助することを心掛けている。入居者のこれまでの人生・価値観を尊重した支援に努めている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 入居者の思いや希望を聞きケアに努めている。また自分の思いを上手く伝えることができない入居者には簡単に答えることが出来るような質問などで対応している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 一日に日課は大まかに決まっているが、何か行う時には、その都度一人ひとりに聞きながら無理のないようその日の体調に応じたケアに努めている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 以前は馴染みの美容室での髪染め、カットを行われていたが、コロナ禍で外出も難しくなっている。着替えを手伝う際は本人様の意向を伺い、季節に合わせた洋服を選ぶよう努めている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 行事や催事には目的に合った料理を提供し、楽しく食事が出来るよう心掛けている。食後の食器洗いも入居者様のその日の状態に応じて一緒に行ったりしている。 | 食材購入から調理まで職員が行い、家庭的な食事が提供されている。ゆったりとした時間枠の中で、それぞれのペースで食事がとれるように配慮している。クリスマスには握り寿司を、敬老の日はお弁当を購入したり、お正月はお節料理を作り、誕生日はケーキを作ってお祝いしたり、食事を楽しむことのできる支援に取り組んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 一人ひとり状態に合わせて食事形態を刻みやミキサー食などに変えて工夫し提供している。水分が入らない時など飲み物を好みのジュースなどに変更し提供している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後歯磨きの声掛けを行っている。介助が必要な方は口腔ケアスポンジやウェットティッシュを使い、口腔内の清潔保持に努めている。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | トイレの訴えが難しい入居者様に対しては行動やしぐさでキャッチしトイレ誘導している。歩行が難しくなられた入居者様に対してはその日の状態に合わせてスタッフ2名で対応し排泄介助を行っている。 | 入居者の行動から排泄のサインを察知したり、定期的な誘導等で、一人ひとりの状況に応じた対応に努め、トイレでの排泄や排泄の自立となるよう支援している。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 排便があった時には必ず記録している。下剤を服用中の入居者は多いが、排便困難な方には起床時にホットミルクにオリゴ糖を入れたり、ヨーグルトなど便通に良いとされている食品を提供し、出来る限り自然排便になるよう努めている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 殆ど入居者は隔日に入浴しているが、入居者によっては入浴後の疲労感などを考慮し、入浴する間隔を長くしたり、入居者の体調などによって入浴の方法など臨機応変に対応している。 | 元日以外は、一日おきの入浴を基本としている。浴槽に浸かれない人は、前もって浴室を暖め足浴しながら掛湯やシャワー浴などで寒くないように配慮し、心地よい入浴となるように支援している | 寒い季節のシャワー浴について、どのような改善策で、より入浴を楽しむことが可能となるか、検討する機会があると良いと思われた。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 一人ひとりの体調に合わせて適度な運動、昼寝を行って頂いている。就寝時、夜間飲用できるようコップ1杯の白湯を提供したり、安心して休んで頂けるよう努めている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 個別のケースに一日分セットし薬を管理している。セットの際にはダブルチェックを行う。与薬の際も別のスタッフに確認してもらい入居者様の前でも声に出して確認し誤薬が起らないよう努めている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 花壇の水かけ、洗濯物たたみ、茶わん洗い、野菜の皮むきなど一人ひとりに合わせて依頼した。お好きなテレビ番組の視聴の声掛けをしたり、コロナで外出が難しく体操やレクリエーション活動で気分転換にも努めている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ以前は外出支援できるように努めていたが、外出はほとんど出来ていない。毎年どこに行っていた等、会話しコロナが終息したらどこに行きたいか外出希望のお話をしている。 | 敷地周辺の桜の木の下で写真撮影や、散歩は行っているが、外出はまだ控えている。室内で出来る気分転換として、縁日を開いて、ヨーヨーすくい・輪投げ・水風船などで楽しむ支援をしている。コロナ収束後は、桜・紫陽花・コスモスなど季節の花見や、初詣等、以前のような外出支援を行いたいとしている。また、状況が許せば、職員と入居者が一緒に食料品等の購入に出かけるなど、以前のような外出・買い物支援をしたいとしている。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 事務所でおこづかいとして預かっている。残金が少なくなったらご家族へ連絡し入金して頂いている。1名の入居者様は希望により郵便局で下ろされる為ご家族様にお願いしている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 事務所にある電話を使用できる。場合によっては携帯電話を利用する事もできる。難聴の入居者様の場合はスタッフが間に入り会話の橋渡しを行っている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間に仏壇があり、畳もあって畳の上で洗濯たみをされていたり、ゆっくり過ごされている。廊下に写真展示して居心地の良い空間を作ったり、お風呂入り口に、のれんを設置してワクワクされて入浴されるように努めている。 | 建物中央の広いスペースに、キッチンや食堂、ソファコーナーや、畳の間などがあり、入居者一人ひとりの心地よさで距離感を保ち、居場所が確保できる環境となっている。また、一緒に過ごす職員も見守りしやすい設計となっている。天窗はカーテンで遮光し、光や室温へ配慮している。廊下にはソファを置き、いつでもゆっくり過ごせる場所がある。また、リビングは、入居者の状態に応じて、ソファの位置を変え、入居者全体が心地よく過ごせるように柔軟な対応で心地よい環境整備を行っている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | お好きな場所で、気が向かれたときに直ぐに腰掛けられるように、数多くのソファが設置されている。景色を眺めたり、居眠りされたり、声をかけて利用者同士、職員と会話を楽しまれている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 馴染みの物を持ってきていただき、落ち着いて過ごせる居室になるよう努めている。居室で過ごされる時間も長いため、毛布を畳んで背もたれにしたりと工夫をしながら過ごされている。 | 各居室には洗面台とトイレの設備がある。入居時は入居前の生活環境を十分に把握し、居室での戸惑いが生じないように家具等の設置位置に配慮している。部屋作りは馴染みの物の持ち込みを推奨している。机を置いて新聞を読む人、お仏壇に毎朝仏飯をあげる人など、これまでの生活の継続、一人ひとりの居心地よさを大切に支援している。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 施設の床は転倒しても衝撃を減らせるように柔らかい素材でできている。身体状況に合わせて手すりの設置やプライバシーに配慮しながら居室トイレのドアを外し、車いすでも入りやすいように工夫をしている。 | | |